

Y22a 超高齢化社会における天文教育の挑戦

鷹野重之, 小田部貴子, 香川治美 (九州産業大学)

近年、特に先進国では高齢化が急速に進んでおり、高齢者の生涯学習の機会が増えている。従来の高齢者学習研究においては、高齢者教育は社会福祉の一環であり、高齢者の健康の維持や精神的充実などが主たる目的であった。しかし、健康寿命が伸びた近年、退職後も相当期間、高齢者の方々は健康を維持しており、その学習活動もはや衰えへの準備ではなく、知的好奇心の充足や人生を楽しむためのもの、ウェルビーイング実現のためのものへと変化してきている。このような環境のもと、天文学をはじめとする自然科学は、高齢者の学習テーマとして大きな魅力を持ち得るだろう。

本研究では、これまで顧みられることのなかった、天文学や自然科学に対する高齢者の学習ニーズを調べ、高齢者学習に適合した天文教育の方法論を検討する。積極的な学習活動を行う高齢者を対象とし、高齢者がどのような学習テーマを好むかを調査した。結果、現代の高齢者は、従来想定されてきた学習ニーズ（衰えへの準備、他者とのつながり、ライフレビューなど）よりも、むしろ学習を楽しみ、学習を通しての視野の拡大を志向し、そのようなニーズを満たせる学習テーマを選択することがわかった。その中で、天文学をはじめとする自然科学も幅広く高齢者の関心を集めていることが確認された。一方で、健康といえども視力・聴力、短期記憶などの面で衰えを抱えて高齢学習者は、プラネタリウムなどの一部の視聴覚教材の利用には困難を感じる場合もある。逆に、豊富な知識を統合し、ものごとを鑑賞し評価する能力は年齢とともに伸び続ける。そこで、天文学コミュニティにできる社会貢献として、安全に配慮し、高齢者の特性にあった教育方法について検討を行うことで、高齢者の知的活動をサポートし、充実した「第三の人生」の実現に寄与することが重要となっていくだろう。